

制限ユーザーに賃貸名人の利用を許可させる方法

(Windows 8)

賃貸名人は、Windows の管理者権限で動作をする仕様です。① ②の設定をすることで制限ユーザでも賃貸名人を利用することができます。自社のご都合により管理者権限を付与できないパソコンには、以下の① ②の設定を行ってください。

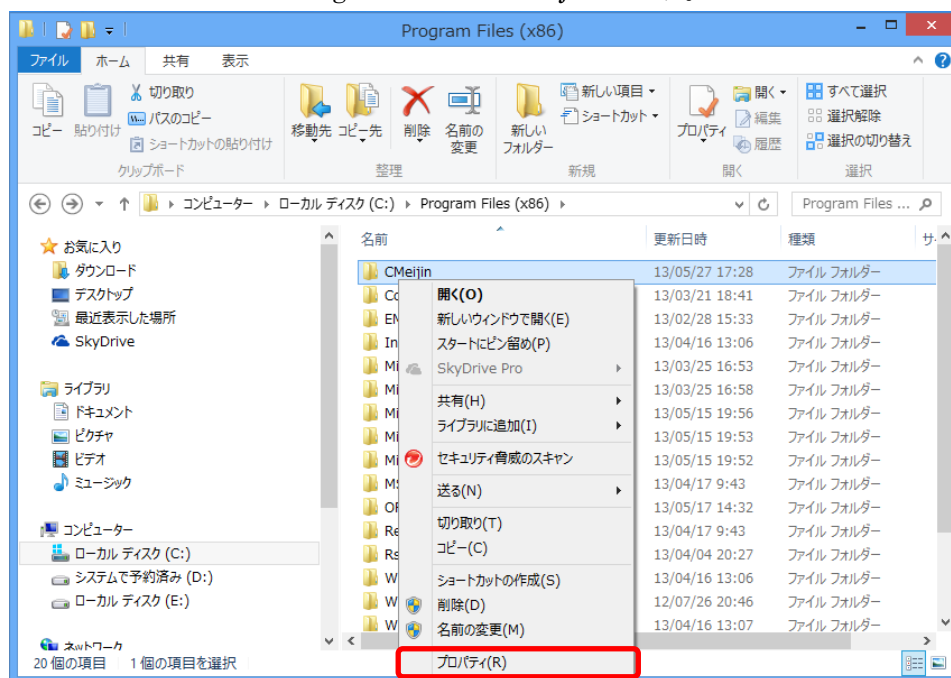
また、Windows OS によっては① ②の設定をすることで、賃貸名人のバージョンアップ作業が行えなくなる場合がございます。お手数おかけ致しますが、その場合は③をご確認ください。

- ① [賃貸名人インストールフォルダのアクセス権限を変更する方法](#) [P1～6](#)
- ② [特権レベルのチェックを外す方法](#) [P7](#)
- ③ [上記手順① ②を実行後にバージョンアップ作業を行う場合](#) [P8～10](#)

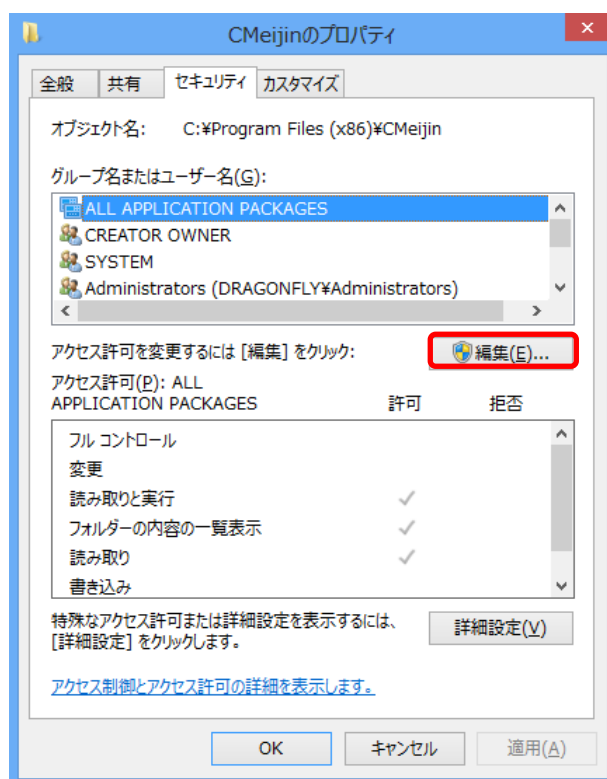
① 賃貸名人インストールフォルダのアクセス権限を変更する方法

次の作業は管理者権限ユーザーで行う必要があります。Windows に管理者権限でログインしてから行って下さい。

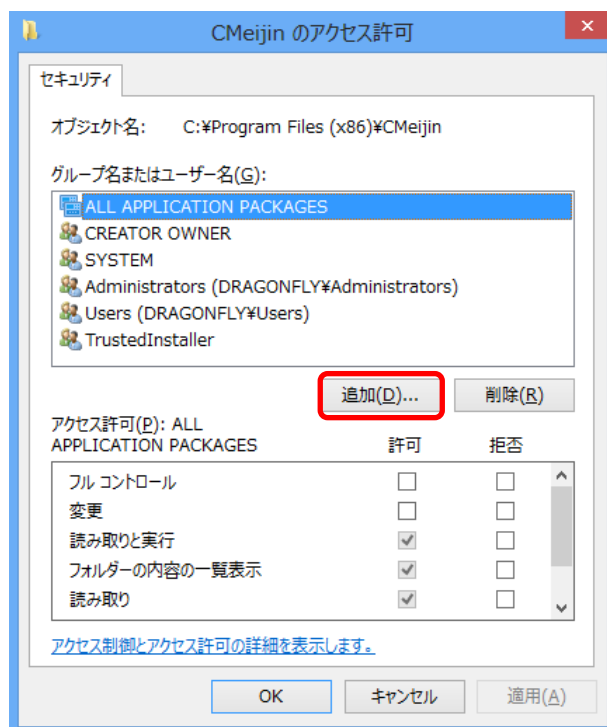
賃貸名人インストールフォルダ※ のプロパティを開き [セキュリティ] タブを展開します。
※標準インストール時は C:\Program Files\CMeijin です。



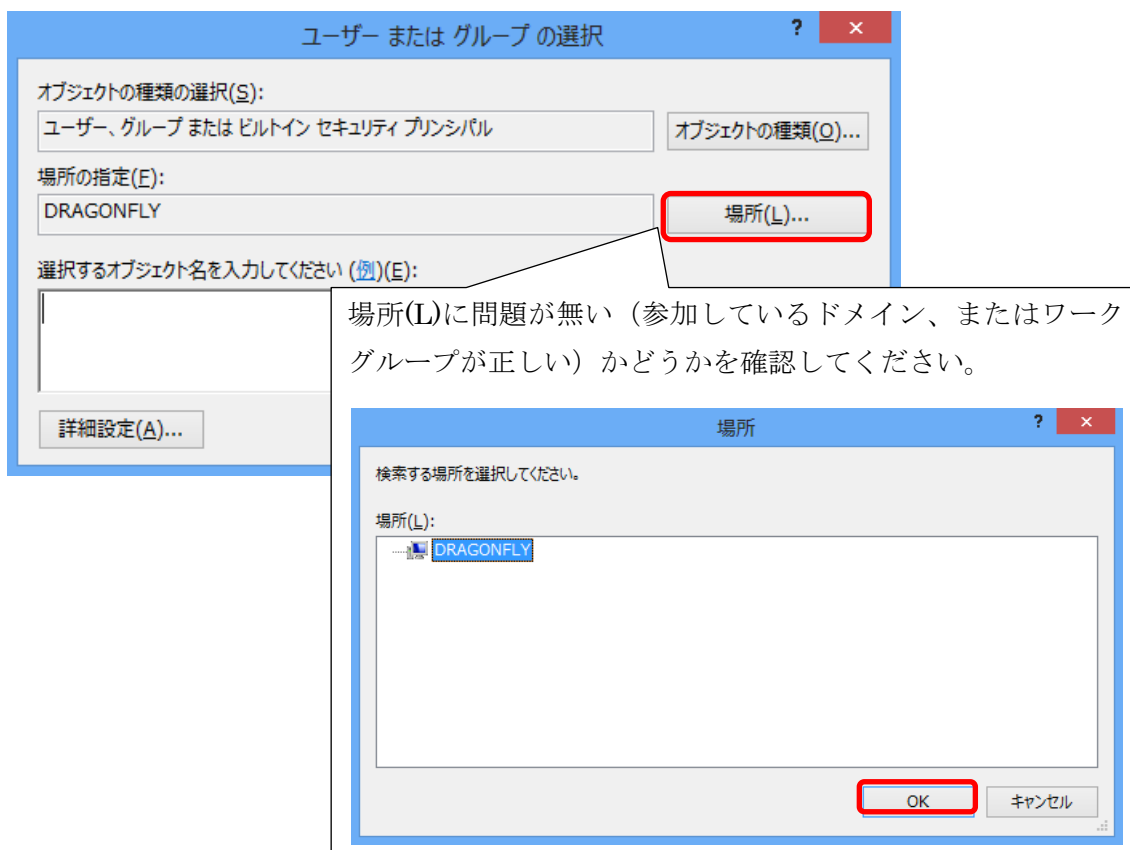
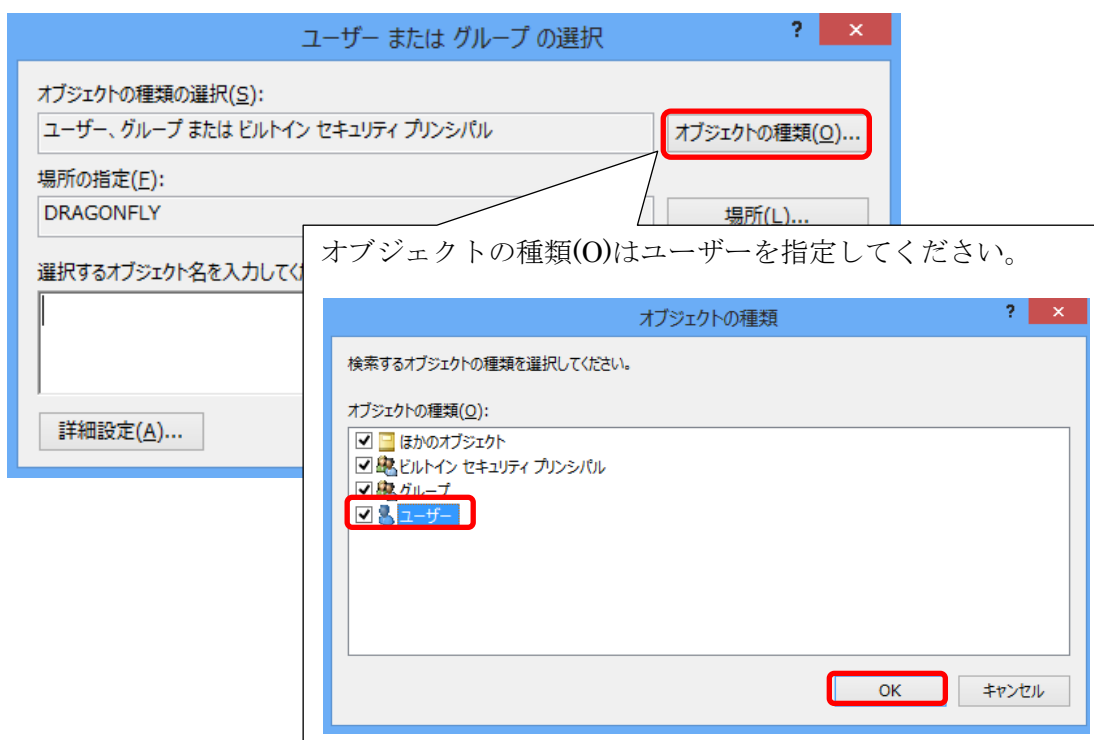
次の画面で「編集(E)」ボタンを押します。



次のウィンドウが開きます。「追加(D)」ボタンを押して下さい。



次のウィンドウが開きます。



[詳細設定(A)] ボタンを押して下さい。

ユーザー または グループ の選択

オブジェクトの種類の選択(S):
ユーザー、グループ または ビルトイン セキュリティ プリンシパル オブジェクトの種類(O)...

場所の指定(E):
DRAGONFLY 場所(L)...

選択するオブジェクト名を入力してください (例)(E):
[Empty text box] 名前の確認(C)

詳細設定(A)... OK キャンセル

[検索(N)] ボタンを押します。

ユーザー または グループ の選択

オブジェクトの種類の選択(S):
ユーザー、グループ または ビルトイン セキュリティ プリンシパル オブジェクトの種類(O)...

場所の指定(E):
DRAGONFLY 場所(L)...

共通クエリ

名前(A): 次の文字で始まる 列(C)...

説明(D): 次の文字で始まる **検索(N)**

☐ 無効になっているアカウント(B)

☐ 無期限のパスワード(X)

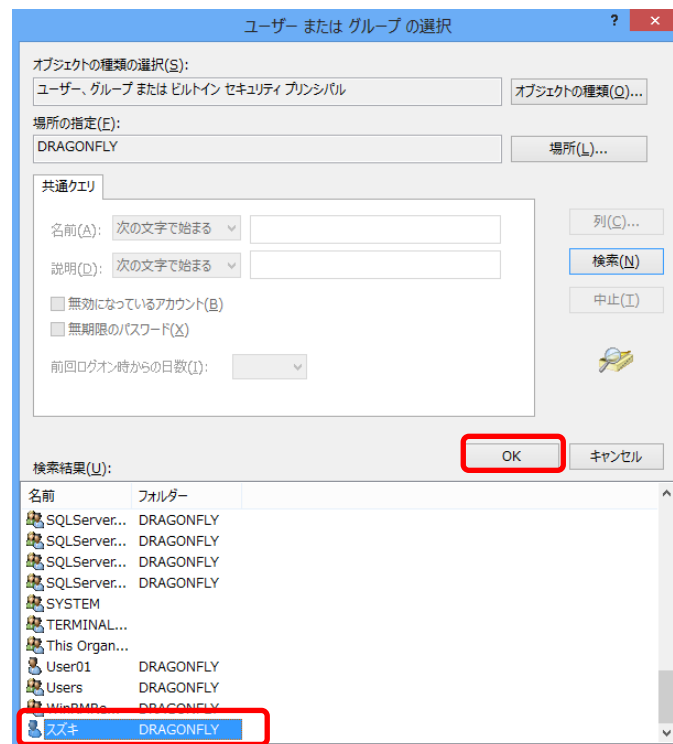
前回ログイン時からの日数(I): 中止(I)

OK キャンセル

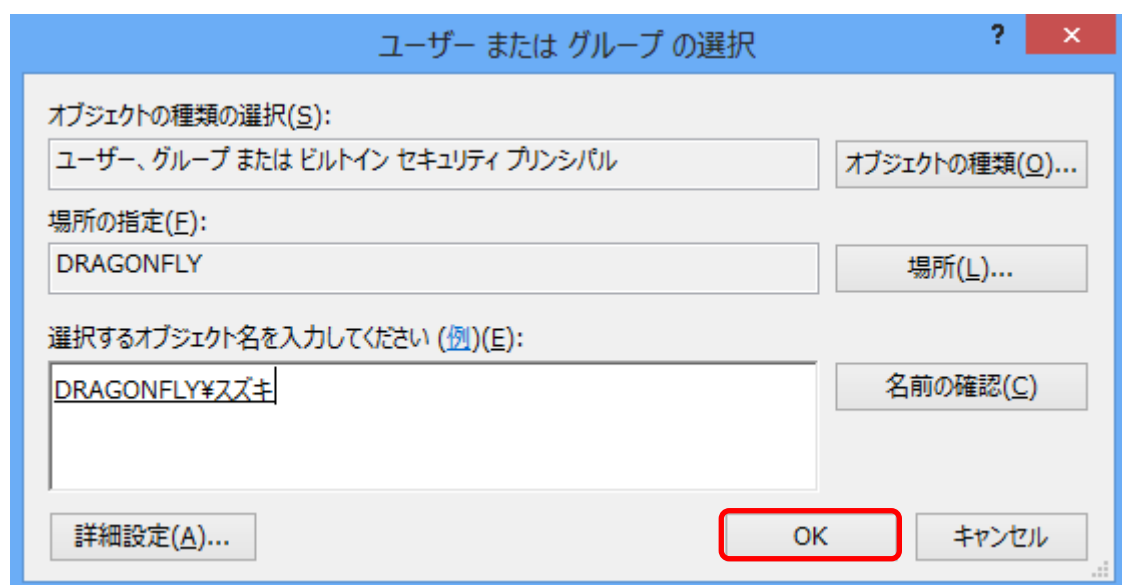
検索結果(U):

名前	フォルダー
----	-------

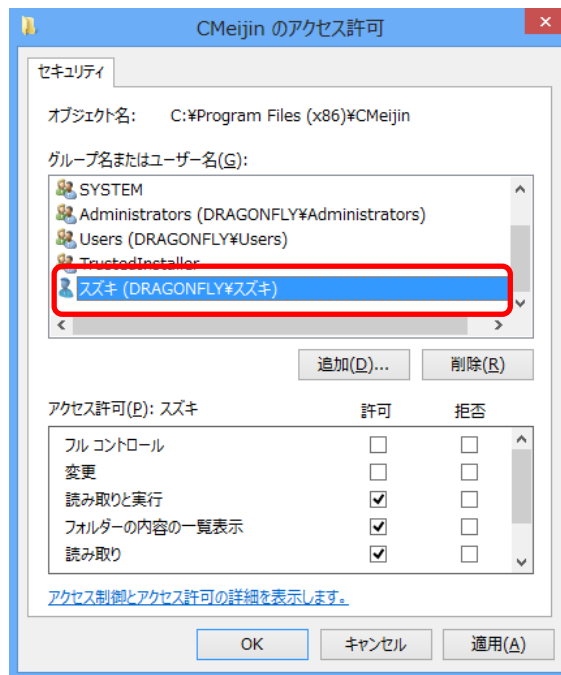
表示されたユーザーからアクセスを許可したいユーザーを選択し、[OK] ボタンを押します。(ここでは スズキというユーザーを選択)



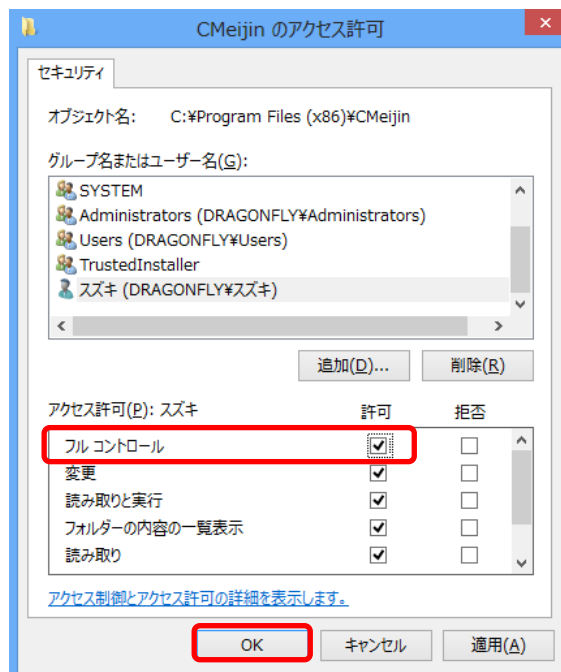
次のように選択したユーザーが表示されていることを確認し、[OK] ボタンを押して下さい。



グループ名またはユーザー名(G)に登録したユーザーが表示されます。



追加されたユーザーをクリックすると、色が反転します。この状態で、アクセス許可(P)欄からフルコントロールにチェックを入れます。



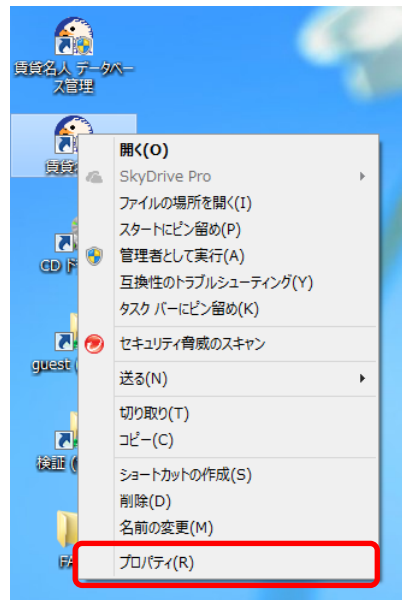
以上で設定は終了です。

[OK] ボタンで変更を確定し、プロパティを閉じてください。

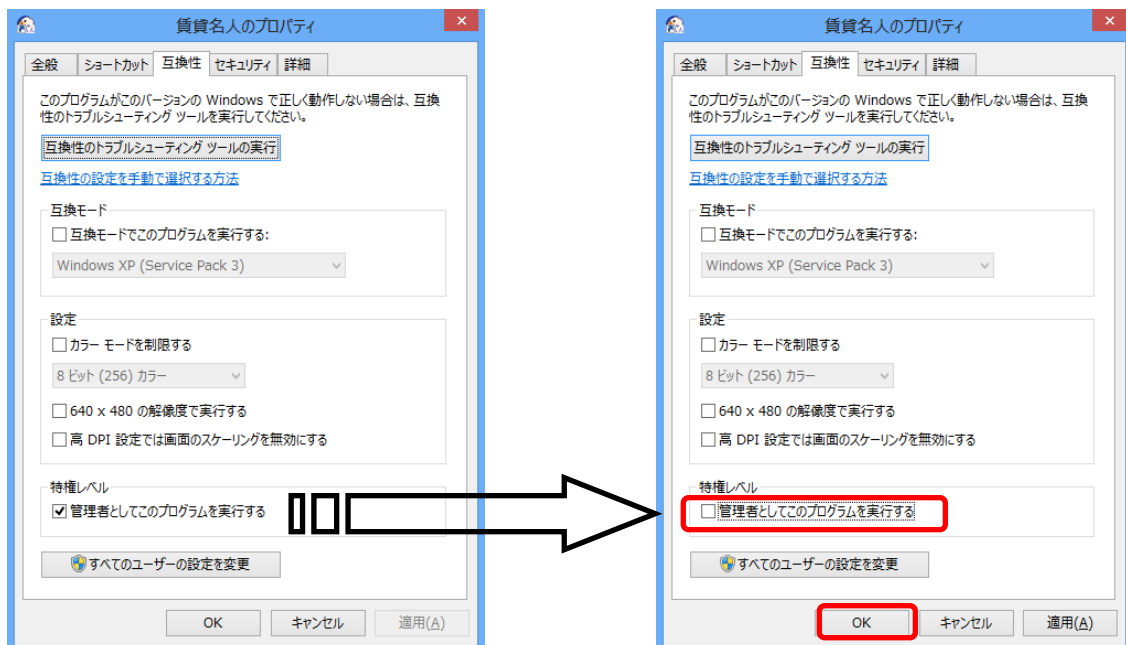
② 特権レベルのチェックを外す方法

次の作業は管理者権限ユーザーで行う必要があります。Windows に管理者権限でログインしてから行って下さい。

デスクトップ上の賃貸名人のアイコンからプロパティを開き、[互換性] タブを展開します。



次の画面で「管理者としてこのプログラムを実行する」のチェックを外してください。



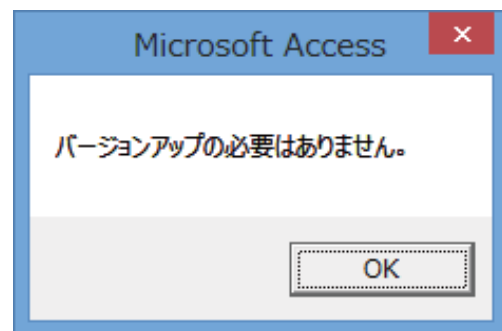
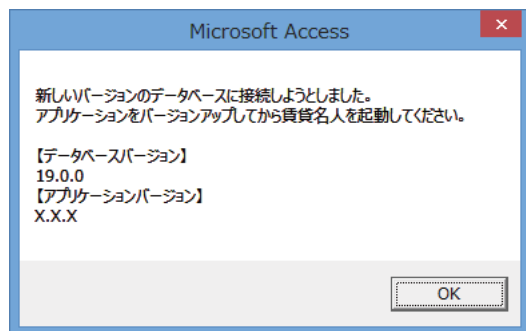
以上で設定は終了です。

[OK] ボタンで変更を確定し、プロパティを閉じてください。

③ 上記手順① ②を実行後にバージョンアップ作業を行う場合

制限ユーザーでは、バージョンアップファイルの更新がされない場合があります。以下の症状及び原因が考えられますので、対策(1)及び(2)を行ってください。

【症状】バージョンアップ後に賃貸名人を起動すると次のようなメッセージが表示される。
また、再度バージョンアップを行ってもバージョンアップの必要は無いと表示され症状が改善しない。



【原因】Windows Vista 以降のOS は、セキュリティ維持のため、User 権限でのProgram Files 下のフォルダにアクセス制限があります。
利用者がUser 権限でアクセスするとWindows が賃貸名人用の無難な仮想領域を自動的に作成し、ユーザには意識させずにそのフォルダを使用させます。

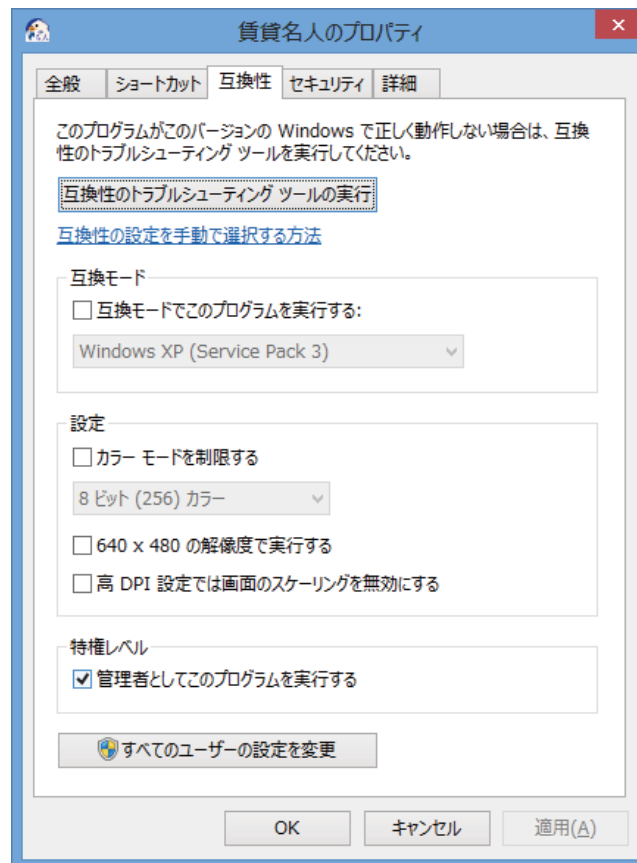
賃貸名人のバージョンアッププログラムは、本来の賃貸名人フォルダ（Program Files フォルダ下のCMeijin フォルダ）を更新しますが、Windows が作成した仮想領域（VirtualStore フォルダ下のCMeijin フォルダ）は更新しません。

しかし、バージョンアッププログラムは、賃貸名人データベース（SQL Server に登録されたデータベース）のバージョンアップには成功します。このため、データベースは新しくアプリケーションが古いという状況が生まれ、前記症状を示します。

【対策】

- (1) 賃貸名人を管理者権限で実行する。賃貸名人のショートカットのプロパティを開き、互換性タブの「管理者としてこのプログラムを実行する」にチェックを入れます。互換性タブが表示されない場合は、スタートメニューに登録された賃貸名人のショートカットでこの操作を実行してください。

この状態で賃貸名人を再度起動してください。このとき、これまでVirtualStore フォルダ下のCMeijinフォルダに登録された賃貸名人の環境設定情報が失われます。このため、接続先の指定や解除コード認証をやり直す必要が生じます。



(2)VirtualStore フォルダ下に自動生成されたCMeijin フォルダを対象にバージョンアップを適用する。賃貸名人のバージョンアッププログラムを再度実行し、インストール先フォルダをVirtualStore 下のフォルダに変更します。



仮想領域のパス

C:\Users¥ [ユーザ名] ¥AppData¥Local¥VirtualStore¥Program Files¥CMeijin¥
※64bit 版OS の場合は、Program Files (x86)

また、Windows Vista やWindows 7 では、AppData フォルダに隠し属性が付与されており、初期状態ではフォルダを指定することができません。AppData フォルダが見つからない場合は、フォルダオプションを開き、表示タブの「隠しファイル、隠しフォルダー、および隠しドライブを表示する」を選択してください。

